

芳賀の史跡めぐり

-1-

鉄造阿弥陀如来坐像と

元安置の跡

古刹・善勝寺（端気町）の御本尊として鎮座する国指定重要文化財の「鉄造阿弥陀如来坐像」は元・国宝で仁治四（1243）年、小坂子町の月山（築山）で製造された仏像です。月山は嶺墓地公園の東南3^キほどの地点ですが、赤城山の裾野から広がる雑木林と田畑の境で、場所の説明は極

めて困難。これといった目印も付近にはありません。車両がやっと通れる凸凹道の行き止まりが月山で、山と山の間は鬱蒼と茂る大木に覆われ、その中に「善勝寺本尊鉄造阿弥陀如来安置址」と記された標柱が表れます。歩みを進めると一帯は開けた広場となります。一角は下



善勝寺に鎮座する「鉄造阿弥陀如来坐像」

草も刈られ「元安置之跡」の碑がたたずみません。ほんの一部ですが、平らになった所もあり、そこにかつて御堂があったのではないかと推測できます。



月山に建つ「元安置の跡」の碑

古老によれば、その昔、この付近には当時としては大きな集落があったそうです。つい最近まで、如来さまの製造途中で出来た「かなくそ」と呼ばれる鉄くずも付近に散乱していました。

伝説によれば「昔小坂子の月山に御堂があった。御堂の裏は沼田街道と云って、大胡から石井を通って沼田に

通ずる街道であった。：仁治三年十二月、親鸞上人が諸国を巡回の途路、この御堂に立寄られた。：上人の非凡な人格を悟った村人は、これを期して阿弥陀如来の像を造るよう上人に願い出た。：座長二尺八寸六分、目方二十三貫四百匁、大勧進僧心禅為法界衆生平等利益也、仁治四年二月に刻み、この本像を堂に安置して：」と芳賀村史には綴られています。

その後、如来さまは戦火を浴びたり盗み出されるなど、波乱の変遷を経ます。そして明治十三（1881）年、鎮座していた西新井（小坂子）城主の菩提寺（今は無い）から善勝

寺に納めたいと願い出されました。

善勝寺の正式名称は良場山慧雲院善勝寺。延暦年間（782—806）の創建という由緒ある天台宗の寺院で、延暦寺の直末。厩橋城主の古文書や、北条時頼が諸国巡歴の折この寺に立ち寄ったという伝説も残ります。

如来さまは、鎌倉時代の仏像の特徴を如実に表す希少なもの。少し左を向いた表情は、ふくよかで柔和。昭和三（1928）年から同二十五（1950）年まで、国宝に指定された気品が漂います。

生涯学習奨励員

山田 守

12月の主な行事予定

12月3日（月）グループ連協ボランティア清掃（芳賀公民館）
12月28日（水）芳賀公民館仕事納め

